

書評 BOOK REVIEW

朝日新聞取材班 [著]

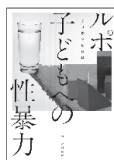
ルポ 子どもへの性暴力

四六判並製・朝日新聞出版

2024年12月刊

定価2,200円(税込)

評者＝西岡真由美(京都大学コンプライアンス部)



この本には、実に104名の性暴力当事者の、いのちを絞り出すような声が収められている。本書は、『朝日新聞』と朝日新聞デジタルに2019年から2024年の間に連載された「子どもへの性暴力」シリーズの第1部から第10部までを収録したものである。お一人お一人の声を本を通じて聞きながら、何度も息が詰まり、ひりひりとした感覚を抱き、苦しく、暗澹たる気持ちになった。ご自身なりの道を開いていかれるくだりに勇気づけられもした。『朝日新聞』という全国紙の記者に自分の体験を語ることや、それが掲載されることには大きな葛藤や逡巡があっただろうと思う。ルポに声を寄せた何人も当事者の方々が「自分に起こったことは、誰にも経験してほしくない」(p.221)と言われているが、そのような悲痛な思いを胸に、体験を打ち明け、「社会や大人がこうであつたら」と示されている大変貴重な記録だ。また、子どもの性暴力をめぐるデータや諸制度、司法や行政の動き、海外の事情も大変丁寧に紹介されている。専門家への取材も豊富である。

本書を読んでいただければわかることだが、子どもの時に受けた性暴力はその人の一生のあり方にも大きく影響を及ぼす。無念の中で命を絶ってしまう人もい。とても深刻なことであるにもかかわらず、これまで被害者は沈黙を強いられ、必死の思いでSOSを出しても信じてもらえなかったり、「いたずら」など軽く扱われたりしてきた。本書の取材班は、そのような現実にもたってもいられない気持ちでこのシリーズを立ち上げ、続けてこられたのだらうと思う。消されていた声に耳を傾け、被害者の側の力を取り戻す貴重な営みでもある。目に見えない壁に挑み、風穴を開けようとする勇気と努力に心から敬意を表したい。

本書は、10章で構成されており、実に多様な被害体験と、その後どのように／どのような思いで生きてこられたかを知ることができる。家の中で実父や継父、兄弟などから受けた性暴力、男の子の被害、教師や指導者などからの優位な立場を利用した性暴力、子どもたちの間での被害・加害、知的障害や身体的障害など障害を持つ子どもへの性暴力、「JKビジネス」や「援助交際」と呼ばれる子どもへの性的搾取、登下校の最中などに遭った見知らぬ人からの性暴力。本書にも書かれているが、被害に軽重はなく、どのような被害であっても子どもにとっては自身の安全感を根底から裏切られひっくり返される体験である。居場所を失うことが生存に直結する子どもにとっては、大人が考えるようには簡単に逃げられない。9章ではどのような動機から加害行為が生じ、どう加害者が行為を捉えているのか、加害者の観点からどうしたら防止できるのかが書かれており興味深い。10章では治療とケアについても記述されている。

当事者たちの語りを受け取った私たちは、それぞれのフィールドで真摯にこの問題に向き合っていかなければならないと思う。子どもの性暴力のリアリティにここまで触れられる本は他にないだろう。あなたの隣で起こっているかもしれない現実を知るためにも、臨床家の方にもそうでない方にも、ぜひ一読いただきたい一冊である。